

「理論福祉」という視座 ーフィクションとしての福祉を構築する試みー

稲沢 公一
東洋大学

この社会は、時代とともに複雑化し、その勢いはとどまるところを知らない。そして、そうした社会がかかえる問題の多様化と歩みを合わせるように、社会福祉もまたその領土を広げてきた。だが、あまりにも急速に拡大していったため、そもそも福祉とは何だったのかといった自らの足元がおぼつかなくなっている。カバーすべき範囲が広くなりすぎて、「あれも福祉、これも福祉」の様相を呈しているからである。

だからこそ、今あらためて、「福祉とは何か」が問い直されてもよい。

現代の社会福祉学は、一方で、福祉の名の下で語られるさまざまな事象に対して、アンケートやインタビュー、あるいは、参与観察や事例などによってデータを収集し、一定の分析手法に基づく実証的な成果を積み重ねることで社会科学の仲間入りを果たしてきた。

だが、「福祉とは何か」という問いへの回答は、こうした実証的な知見から得ることができない。というのも、現実が福祉を規定するのではなく、人々が特定の現実を福祉として認めるかどうかによるからである。だからこそ福祉は、時代とともにその意味するところを変容させ、伸展してきたのであった。

またもう一方では、福祉に共通する基本的な特徴は何かと問い、依って立つ思想や理念を探索し、あるいは、歴史的展開を追いながら制度や政策を体系化してきた。さらには、個別具体的な実践から有効な原則を整理してきたのだが、これらの試みも、福祉とはこういうものだということを明に暗に前提としているため、その出自を見極めることができない。

このように、「福祉とは何か」という問いは、実証的に問うことができず、かつ、何らの前提もなく議論することができない。だとすれば、最初に、そして自覚的に、「福祉とは何か」ということを決めてしまうという試みも検討に値する。制度や実践、理念や歴史から「福祉なるもの」を抽出しようとするのではなく、反対に、「一定のルールに基づく人々の営み」として、はじめに福祉というものを作ってしまうのである。

「あるルールに基づく営為」として規定された福祉については、ここで「理論福祉」と呼ぶことにする。それは、「理論的に構築された福祉」という意味であり、多様な現実から一定の共通性や傾向を抽出していく帰納的な「福祉についての理論」ではなく、特定のルールを前提として論理的に導き出す演繹的な作業に基づいて、いわば、フィクション（仮構世界）として作られた福祉である。

帰納的な実証研究では、現実から得られるデータに基づいて、限定的な理論が作られていく。もちろん、そうして得られた成果を蓄積していくことによって、少しずつ全体像に迫る

うとする学術的営為がどれほど重要であるかといったことは言を俟たない。だが、それだけでは、データやその分析解釈の寄せ集めに終わってしまう危険性もある。

さらに、科学は、根拠としている実証性に対して、それもまたフィクションの一つに過ぎないのではないかと問うことがない。だが、そもそも根拠なるものは、本来一つのフィクションとして構築されるものでしかない。いかなる根拠も、それ自体は無根拠なのだから。少なくとも、哲学は、こうした事態を見据えることによって始動する。

とはいえ、フィクションとは、人為的に作り出されたものであるため、現実の豊饒さを前にするとき、その貧弱さは目を覆うばかりである。また、フィクションにおけるルールの設定は、単に恣意的であり、エビデンスなど元より望むべくもない。

あるいはまた、社会福祉学では、理論と実践の乖離をいかに解消するかがテーマとされてきた。しかし、理論福祉は、実践に対して、もちろんそれを捨象するわけではないにせよ、少なくとも一旦はカッコに入れ、理論に純化することで何が見えてくるのかといった問いの先に姿を現す。

もし、こうした無謀な試みに意味があるとすれば、その虚構性を自覚しているからこそ眺望できる地平がたしかに存在するからである。たとえば、福祉のルールを「無条件の肯定」に設定した場合、これを成り立たせる論理構造を考究していくことによって、世界が立ち現れてくる始源を見通す地点にたどり着く（稲沢 印刷中）。

言うまでもなく、社会科学としての発展こそが社会福祉学の主流であることには、いささかも疑いの余地がない。しかし、学問としての成熟を求める際には、実効性のある科学的な知見の片隅に無益な理論を帯同させることも一興である。それが学問としての懐を深くすることに通じるからである。

であれば、理論福祉などという奇を衒う試みにも、「社会福祉学の未来」に資する可能性があるといってよいのかもしれない。

・稲沢公一（印刷中）「福祉と宗教（修験道）の論理構造に関する比較研究—『理論福祉』の構築に向けて—」『ライフデザイン学研究』15号